

すこやかネット研究会 (代表/京都造形芸術大学芸術教育資格支援センター専任講師: 濱元伸彦さん)

学校と地域の協働を支える調整組織の評価に関する研究

—大阪府の「すこやかネット」に焦点を当てて—

子どもたちの明るい笑顔と未来のために、今、できること

■自治体がすすめる事業の評価機関として

教育社会学を専門とする濱元伸彦さん(京都造形芸術大学専任講師)と高尾千秋さん(元神戸大学助教)が共同代表を務める「すこやかネット研究会」は、大阪府の総合的教育力活性化事業として設置された地域教育協議会「すこやかネット」(以降「すこやかネット」)を支援するための民間評価機関としての役割を担っている。

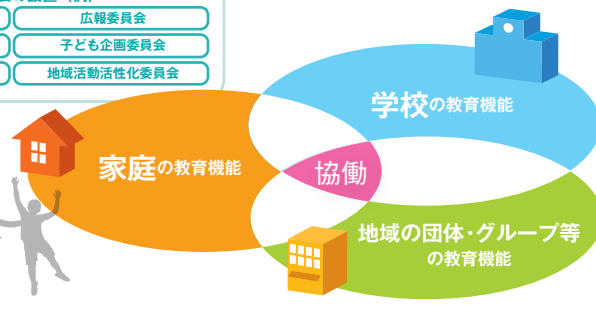
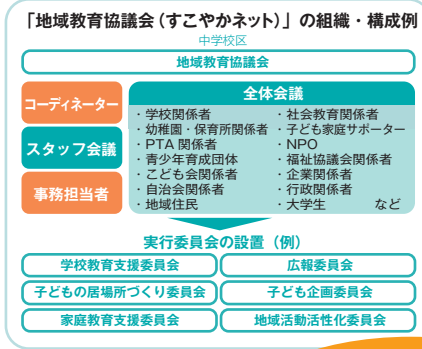
大阪府の「すこやかネット」は、濱元さんの恩師でもある故・池田寛氏(元・大阪大学大学院教授)が提唱した教育コミュニティづくりの実践として平成十二年度にスタートした。大阪府では、教育を縁に地域の子ども同士、子どもと大人、大人同士が交流することで、「顔と名前が一致する人間関係」を育む中で、0歳から15歳の子どもの連続した成長を見据えた取り組みをすすめている、という。中学校区を単位に「すこやかネット」という地域連携組織を設置し、各地域の教育活動が促進され、創設から3年で大阪府内の全中学校区(大阪市を除く334中学校区)に当時への設置が完了した。

平成13年から5年間、池田寛教授も支援に加わり、リーダー育成のための「地域コーディネーター養成講座」を開講、濱元さんも大学院生時代に講座に携わった。その後、事業開始から17年余りが経過し、組織の形骸化や財政難などで活動が停滞するのを危惧した濱元さんたちは、平成27年に「すこやかネット研究会」を発足。同研究会では「すこやかネット」の現状を把

「教育コミュニティ」づくりとは

教育や子育てに関する課題を学校、家庭、地域住民が共有し、課題解決に向けた協働の取組みを通じて、新たな人のつながりをつくり出していく仕組みや運動をいう。

(組織図提供:大阪府)



大学院時代「学校と地域社会の協働」をテーマにフィールドワークを行う。アメリカ留学で教育研究の調査法や教育政策論を学んだ後、中学校教諭を6年務め視野を広げた。現在は京都造形芸術大学で教職課程の指導に当たっている。

握、子どもや学校への影響・効果を明らかにし、今後の教育コミュニティづくり支援の方策を検討している。

■成長の見守りが大人の生きがいづくりにも

各校区の「すこやかネット」では、学校を地域に開放して、学習・体験プログラムや各種イベントを開催している。子どもの参加が多い体験活動プログラムでは、大人がこれまで習得してきた技術や学び・遊びを子どもたちに伝えることで、世代間コミュニケーションの楽しさ、生活の張り、生きがい、喜びが生まれ、これが生涯学習の活性化に繋がっている。子どもの方でも、地域の様々な大人と接することで指標が見え、新たな生涯学習者となる良い機会になっている、と濱元さんは考えている。

■「すこやかネット」活動の手法を開発

実は、大阪府内でも活発に活動している地域とそうでない地域がある。「すこやかネット研究会」では、活発な地域を訪ね、参与観察やヒアリングを行い、成功事例を検証することで、教育コミュニティづくりの手法を検討してきた。また、平成29年には、生涯学習開発財団からの助成金を用いて、大阪府内の学校・地域関係者に向けて大規模なアンケート調査を実施しており、現在その集計を進めている。結果分析で得られた成果は、自治体の研修会等で利用する他、準備中の同研究会ホームページでも公開していく予定だ。これまで教育コミュニティづくりの実証的な評価手法がなれるもの、大阪府に限らず全国レベルで活用していくもの、と期待が寄せられている。